

IAUD Newsletter vol.8 第 10 号(2016 年 2 月号)

1. IAUD アワード 2015 受賞紹介②	1
2. 住空間 PJ 「シェア金沢」視察とワークショップ開催	8
3. 第 5 回 UD 検定・中級 事前講習会と検定試験のご案内	14
4. 第 6 回国際 UD 会議 2016 プレイヴェント開催のご案内	15
5. IAUD 2016 年 2 月の予定	15



IAUD アワード 2015 受賞紹介②

事業戦略部門大賞:「らく楽アシスト～あん心してらくに楽しく使える
製品開発の取り組み～」 三菱電機(株)
教育部門大賞:「Universal Design Education and Development」
DJ Academy of Design(インド)

IAUD アワード 2015 受賞紹介の 2 回目は、事業戦略部門で大賞を受賞した「らく楽アシスト～あん心してらくに楽しく使える製品開発の取り組み～」(三菱電機(株))と教育部門で大賞を受賞した「Universal Design Education and Development(UD 教育と開発)」(DJ Academy of Design: インド)です。

IAUD アワード 2015 審査委員長のロジャー・コールマン氏(英国王立芸術大学院名誉教授)は、「らく楽アシスト」の取り組みに対し、「安全に使える、簡単に使える、楽しく使えるという 3 つの主要理念を構造化されたプロセスで適用し、ユーザーフレンドリーなデザインの重要な特徴を明確にした。そして、それらの特徴を共生的で抵抗のない形で実現した」と、高く評価しました。

また、「Universal Design Education and Development」の取り組みには、「UD のメッセージを広め、他の機関が後に続くよう激励しようとする同校およびその主要スタッフの高いエネルギーと意欲に感銘を受けた。また、国際的な結び付きや協力関係を充実させることで、インドにおける UD 思考の発展に重要な役割を果たしている」と、高く評価しました。

今号の Newsletter では、「らく楽アシスト」の取り組みを三菱電機(株)デザイン研究所産業システムデザイン部ユーザーエクスペリエンスデザイン基盤 G 専任 山崎友賀氏に、「Universal Design Education and Development」の取り組みを DJ Academy of Design 学長のシンガナパリ・バララム教授に紹介していただきます。

「あん心」と「使いやすさ」、その先にある「楽しさ」に配慮したものづくりへ

事業戦略部門大賞「らく楽アシスト～あん心してらくに楽しく使える製品開発の取り組み～」
三菱電機(株)

高齢になっても、障がいがあっても、快適で充実した生活を送りたい。これは万人に共通した思いです。

三菱電機はメーカーの立場で、「一人ひとりの使いやすさ」をできる限り多くの人に広げることが目標に、UDに取り組んできました。

らく楽アシスト

「らく楽アシスト」は、その目標のもとに、家電製品の開発において2010年から継続している活動で、子どもから高齢者、身体の不自由な方など、できるだけ多くの方が自由に使いこなせる製品の開発を実践してきました。

今回、その取り組みが評価され、IAUDアワード大賞をいただくことができました。以降、「らく楽アシスト」の取り組みについてご紹介いたします。

「らく楽アシスト」3つのコンセプト

「らく楽アシスト」は、危険や誤操作を防いで安心して使える配慮、身体の負担やストレスを減らしてらくに使える手助け、製品をもっと使いたくなるような楽しく使える工夫、これら3つのコンセプトに基づいています

安心して使える

人は間違いを起こすということを前提に、誤操作を未然に防止する工夫を施しています。万が一、誤操作した場合には、そのことが分かるように、設定状態や動作状況の表示やフィードバックを確実にを行っています。

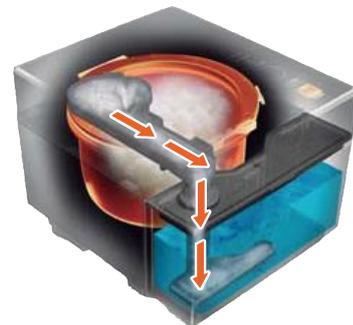
また操作部にカバー・ガード・ロックの機構を設けて、不用意に動作したり、火傷やけがをすることがないように、安全な構造に配慮しています。この他にも、製品を清潔に保ったり、災害時にも安心して使える工夫を盛り込んでいます。



リモコン(エアコン)



リモコン(テレビ)



ジャー炊飯器「蒸気レス IH」

電池の+が反対の場合は入りにくくして挿入ミスを防ぐリモコン

高温の蒸気を出さないことで火傷を防ぎ、炊飯中は蓋が開かないようにロックするジャー炊飯器

らくに使える

製品の操作パネルやリモコンなどは文字の大きさやフォント・コントラストなどにも配慮し、見やすく読みやすい設計を行っています。

またわかりやすさに配慮して、光や音、音声で使い方や注意点をお知らせしています。

この他にも、報知音や音声ガイダンスを聞き取りやすくする工夫や、開閉や操作姿勢などで身体に負担をかけにくい構造を採用しています。

・読みやすい UD フォントを使用

356 → 356
従来使用フォント UD フォント

・使用頻度の高い文字を大きく表示

電源 → 電源
従来標準 漢字 4.0mm
新基準 漢字 7.5mm



IH クッキングヒーター「らく楽 IH」

報知音や報知光、音声で使い方をわかりやすくナビゲートする IH クッキングヒーター

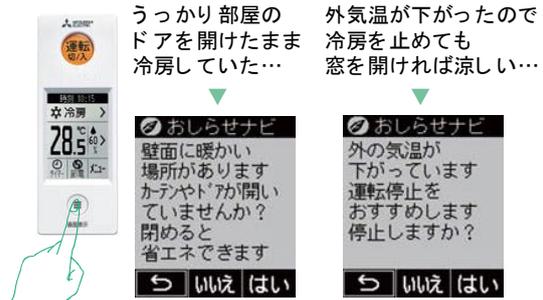
楽しく使える

UDの基本を追求・発展させて、使う人の楽しさや使い心地の良さを高める配慮をしています。楽しむ道具として製品を暮らしに取り入れることで、人と家電のつながりを広げ、また製品が状況に応じた上手な使い方をアドバイスすることなどを通じて、使う人のレベルアップもお手伝いしています。



カロリーサポート うんどうサポート おそうじスタジアム おそうじ達人

掃除をゲーム感覚の楽しいものにする
掃除機専用アプリ「カロナビ」



ルームエアコン「霧ヶ峰」

センサーがお部屋の状態を把握して、
エアコンのより上手な使い方をアドバイス

開発プロセスへの適用

これらのコンセプトに基づいた製品を実現するために、開発プロセスにチェックツールや評価、ガイドラインなどの各種手法を適用しています。

UDガイドライン:

子どもから高齢者、身体の不自由な方の調査研究をもとに、独自のガイドラインを作成しました。「見やすさ」「聞きやすさ」「わかりやすさ」「身体の負荷軽減」の配慮などの項目で構成されており、製品の企画段階から開発の全体を通じて適用しています。例えば、

- ・見やすさへの配慮
文字の種類に応じて大きさを規定(主要な文字で漢字の場合は7.5mm以上)など
- ・聞きやすさへの配慮
高齢者にも聞き取りやすい音を利用(報知音は2kHz近傍)など
- ・わかりやすさへの配慮
直感的に操作ができる、わかりやすいボタン配列や表示要素のグルーピングなど
- ・身体の負荷軽減への配慮
できるだけ無理な姿勢を取らせない、体の大きさに合わせたデザインなど

UD-Checker:

製品特性に応じたUDの目標レベルの設定や定量的な達成度の評価を行う独自のツールとして、「UD-Checker」を開発しました。デザイン開発の過程で開発者がチェックし、改善すべき項目を抽出します。このツールを活用することで、ユーザー特性の理解や解決手段を考えるきっかけにもなっています。



UD 達成度評価シート



結果シート

ユーザビリティワークショップ:

高齢者を含めたさまざまな人に製品やプロトタイプを使っていただき、その時の発話や操作行動を分析するなどの方法で、使い勝手の課題を抽出します。実際のユーザーの使用状況を観察することで、多くの気づきを得ることができます。



リモコンの操作性評価



ユーザビリティ評価室

製品ライフサイクルへの導入:

製品以外に、梱包箱、カタログ、取扱説明書にもUDの考え方を取り入れ、「見やすさ」「わかりやすさ」「繰り返し使える」などの配慮を実践しています。また、お手入れや修理・廃棄やリサイクルでも身体の負担軽減、作業の利便性に配慮することで、製品のライフサイクルすべてのプロセスにUDの考え方を導入しています。



取扱説明書



梱包箱

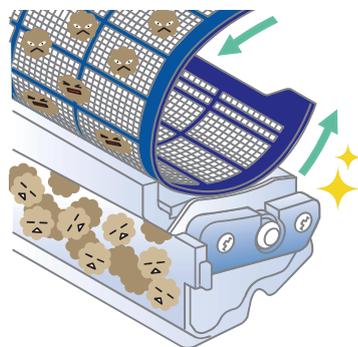


カタログ

イラストなどでわかりやすさを向上させ、取扱説明書の読み上げCDも無償提供

型名などの視認性の向上や出し入れを繰り返す製品の片付けやすさにも配慮

さまざまな人が見やすくなるよう文字サイズやコントラストなどの作成指針を策定



お手入れに配慮した
エアコン「らく楽お手入れ」

高所のエアコンは、お掃除メカが
フィルターをクリーニング



廃棄に配慮した
テレビ本体の背面カバー

テレビの背面カバーに
ネジの本数や種類を表示

快適で豊かな社会づくりのために

高齢化の進む日本では、今後、生活のさまざまなシーンでUDの配慮がより求められる社会になっていきます。生活に密着した製品を使いやすくすることは、高齢者や身体が不自由な方も含めたさまざまな人が、自分のペースや自らの意思で日々の暮らしを送ることを手助けすることにつながります。

「らく楽アシスト」が目指すのは、UDを通じてさまざまな人に対する「あん心」と「使いやすさ」、そしてその先にある「楽しさ」に配慮したものづくりです。

使いやすさで暮らしは変わる。

三菱電機はこれからも、さまざまな課題と向き合いながら、一人ひとりの暮らしのクオリティを高める、快適で豊かな社会づくりに貢献します。(了)

インドにおける UD 思考の発展に貢献

教育部門大賞受賞:「Universal Design Education and Development」(UD 教育と開発)

DJ Academy of Design(インド)

UD の教育と普及が急務なインド

本来人間は十人十色。左利きからトランスジェンダーまで、身体的にも精神的にも、そして性的指向も様々です。

また、歳を重ねるにつれて人の能力は変わります。生きていれば、痩せたり、太ったり、妊娠したり、太鼓腹になったり、背中が曲がったり、老いたり、肉体と心は常に変化します。また、臓器や五感の一つの機能が低下しても能力は変わります。

モダンデザインは、人間を中心に据えて、周囲の物理、認識環境を形作る仕事として誕生しました。しかし、今日世界に広まっているデザインのほとんどは、「能力の異なる人々がいる」という現実を無視し、いわゆる「健常者」のみに対応するものとなっています。

現代生活の重圧により、能力の異なる人々の数は、世界で着実に増えています。インドのような人口大国ではなおさらです。

教育は若い知性に影響を及ぼし、ひいては責任ある次世代市民を育てる要となります。インドは 25 歳以下の若者人口が世界最大であることを考えると、インドにとって教育は極めて重要です。

また、インドには高齢者を含めおよそ 1 億 8800 万人の障害者がおり、世界の首位を占めています。

この他にも、インドではその多元的な性質および多様な開発圧力に対する対応を余儀なくされています。こうした事情から、問題は複合的で、政治的、社会的に大きな課題となり、精神的及び肉体的障害に加えて貧困、カースト制度、言語、および宗教という困難な壁を作っています。

皮肉にも、インドでは一般市民のみならず、デザイナーやデザインに関わる教育者や研究所も障害者の抱える問題についての意識がなく、様々なレベルにおける UD の教育と普及が急務です。

インド初の国際 UD 会議を開催

DJ デザインアカデミー(タミル・ナードゥ州コインバトール市)は、2005 年の設立当初から UD の教育と普及の必要性を認識し、一貫して取り組んできました。

UD における持続的かつ正規の教育を通じて、その知識と技能を次世代のリーダーとなる学生に伝えるとともに、社会のあらゆる部門における UD に対する意識を高め、若い卒業生が役立てるべく公平な統合社会の実現を目指しています。

DJ デザインアカデミーは 2005 年の開学以来、他のデザインスクールに先駆けてインドで初めて UD を正課として取り入れています。これはささやかながらも快挙です。

また、DJ デザインアカデミーでは、入学基準を満たした入学希望者に障害があっても入学を認める方針です。キャンパスも障害者が利用しやすいようデザインされており、人が集まる屋外



DJ デザインアカデミー校舎

の広場だけでなく、キャンパス内の建物も車椅子対応になっています。

また、一般の認知度を高めるため、学生が行った UD プロジェクトがキャンパスで定期的に展示されています。学生が制作した目の不自由な人の映画 2 本（「Insight」と「Being Blind」）も、様々な会議で上映されています。

2015 年 3 月には国内外から著名な講演者を招き、インドで初めての国際 UD 会議「Universal Design And Development (UDAD) 2015」をコインバトル市で開催し、51 組織から 200 人が参加しました。

会議では最終的に、「インド DJ デザインアカデミー・UD 協定」という宣言がまとめられ、国内の主要なデザイン研究所や政策立案機関および国外の国際組織に配布しました。

※IAUD サイトグローバルネットワークに掲載された UDAD2015 開催報告はこちらをご覧ください。

<http://www.iaud.net/globalnet/archives/1507/09-000000.php>



UDAD2015 の様子

インドの UD 原則を学ぶ

他の多くの「多数派世界」(つまり発展途上諸国)と同じく、豊かな(つまり先進)諸国に適用される UD の原則は、物理的、経済的、社会文化的背景の全く異なるインドでは通用しません。

例えば、あらゆる活動がでこぼこの地面で行われる貧しい地方の家庭では、車椅子は役に立ちません。

こうした状況に気づいて憂慮したインドのデザイナーや思想家の団が、2011 年に「インド・UD 原則 (UDIP)」をまとめました。

私(DJ デザインアカデミー学長 シンガナパリ・バララム教授)もそうした一人で、インドにおいて重要な基準となる UDIP の起草に参加しています。

このような社会的、文化的障壁を超える UD 原則を学ぶことも DJ UD コースでシミュレーションする学生
デザインアカデミーの科目に欠かせないものです。その例として、社会変革に向けたデザインやインタラクティブ・デザインなどがあります。

さらに、DJ デザインアカデミーの主要な教員は、国内外の会議で多数派世界(発展途上諸国)の問題を中心に UD について定期的に発表を行っています。

私はこのテーマで広く執筆しており、出版されたものとして「Universal Design Hand Book」第 2 版、また「ブリタニカ百科事典」「Universal Design: 17ways of thinking and teaching」への寄稿があります。

インド行政に UD 導入政策を

DJ デザインアカデミー は、上記のようなプロジェクトを通じ、UD の原則を学び、デザインプロジェクトに応用するよう若者への啓蒙を行っています。

さらに、デザイナーやデザイン関係者、一般大衆に影響を与え、UD を実務に組み入れるよう、インドにあるすべてのデザイン及び建築の研究機関に呼びかける取り組みも行っています。

また、UD における教育、実務の分野で先進の研究を持続的に行う UD 研究センターの開設を予定しています。

2015年のインド独立記念日(8月15日)の前日、DJデザインアカデミーは国内におけるUD教育の推進が認められ、NCPEDP(全国障害者雇用促進センター)の「Mphasis ナショナルアワード」を受賞しました。

最終的にDJデザインアカデミーは、「公平な統合型人間社会を実現するUD導入政策の枠組みを作る」よう、インド行政の意識を高めることを目標としています。

今回、「IAUDアワード2015大賞」を受賞したことは、今後この目標に向けた長い道のりの励みとなることでしょう。(了)

IAUDアワード2015受賞紹介①はIAUD Newsletter vol.8 第9号をご覧ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1601/18-150000.php>

IAUDアワード2015受賞結果はこちらをご覧ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1511/09-000000.php>

IAUDアワード2015審査委員長からのメッセージ、審査講評はこちらをご覧ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1512/22-000001.php>

これからの住まいとコミュニティ提案に向けて 活動報告:住空間PJ「シェア金沢」視察とワークショップ開催

これからの日本の住宅と「防災」にもつながるコミュニティの在り方について研究している住空間プロジェクトは、コミュニティを重視したシェアハウスの事例として、2015年12月8日(火)にシェア金沢(石川県金沢市)を視察しました。

視察後には、金沢美術工芸大学名誉教授で、48時間デザインマラソンの監修者の荒井利春氏の実験工房(同市)でワークショップを実施し、有意義な討論が行われました。

当日は同PJのメンバー6名のほか、会員企業から7名(パナソニック2名、富士通3名、積水ハウス1名)、賛助会員1名、荒井氏の計14名が参加しました。

今号のNewsletterでは、視察の様子とワークショップの記録を同PJ主査の宮脇伸歩氏が報告します。



視察後のワークショップの様子

シェア、多世代住まいの好事例「シェア金沢」

住空間PJでは、2014年に開催された「第5回国際UD会議2014 in 福島&東京」でのワークショップを起点として、これからの日本の住戸の在り方と、今後さらに重要度を増す防災に必須のコミュニティの在り方について、仮説を提示し検証を重ねながら、将来へのプロトタイプ提案につなげていくことを目標としています。

今回の視察は、世の中の先進事例から学ぶという従来からの新空間視察の方法に基づき、これから増加が見込まれるシェアの住まいや多世代の住まい方の絶好の事例として、「シェア金沢」を選びました。

施設をただ漠然と見てしまうと見逃しや理解不足が生じる可能性があるため、事前の定例会で視察方針を検討し、「視察の視点」を記入できるヒアリングシートを作成しました。

大項目は「施設・住戸について」「人について」「コミュニティについて」「今後のヴィジョンについて」となりました。

シェア金沢視察ヒアリングシート			
視点	氏名	所属	担当
施設・住戸について			
人について			
コミュニティについて			
今後のヴィジョンについて			

視察の視点を記入できるヒアリングシート

障害児童が「名前」で呼んでもらえる環境作り

まずは「シェア金沢」施設長の奥村俊哉氏に、「シェア金沢」の成り立ちや障害者の就労施設としての取り組みなどについてお話し頂きました。以下、奥村氏の説明を抜粋します。

戦後、「行善寺」(石川県白山市)の住職が、自身も孤児だったということもあり、孤児がいると聞くと引き取って一緒に暮らすという生活をしていました。

そのうち、「お寺の本堂に子供たちが暮らしているのでお葬式もできない」と檀家さんから苦情が出てきたため、社会福祉法人の資格を取り、住職が理事長となって養護施設と県内初の知的障害児入所施設という2つの機能を備えた「佛子園」をスタートさせました。

1965年に行善寺より土地と建物の寄付を受けて完成した施設も老朽化したため、地域とのかかわりが持てる場所ということで、2013年には現在の土地(金沢市若松町)に「シェア金沢」を開設しました。この場所は元々、国立若松病院という結核患者のサナトリウムがあった場所です。

「シェア金沢」は、「地方創生の中での日本版 CCRC(生涯活躍の街)」とよく言われるのですが、実は高齢者の施設というのではなく、親元を離れて暮らさざるを得ない31名の障害児童のための施設として考えたものです。

さまざまな境遇や事情で暮らしている子供たちが、障害児童の一人というのではなく、ちゃんと一人一人を覚えてもらって、名前を呼んでもらえて暮らせることを目的としています。

子供たちの幸せを考えると、学生と一緒に住んでくれたり、元気なおじいちゃんおばあちゃんにも住んでもらってお世話をしてもらえたら、ということで、敷地内に学生用のアトリエ付住宅やサービス付き高齢者向け住宅を作りました。子供たちの生活を支える担い手として住んでもらうためです。

2015年4月には安倍晋三首相もCCRCの事例として訪問いただきましたが、高齢者の施設ではないので、面映ゆい感じがありました。

「シェア金沢」は、閉ざされた施設というのではなく、地域の人が自分たちが考えて自分たちが使っていく場所なんだ、ということが大分日常になってきました。先日も近くの小学校の子どもたちが写生大会に大勢来られて、にぎやかにしていました。



説明する奥村施設長



シェア金沢内にある住宅

障害者に就労の場を提供

「シェア金沢」には毎日、40名ほどの障害者が働きに来ており、障害者の就労の場でもあります。

社会福祉法人「佛子園」はこれまでに、石川県内にいくつかの障害者の就労の場を設置してきました。その始まりが、「日本海倶楽部」(石川県鳳珠郡能登町)です。

「佛子園」が奥能登に障害者施設を作る際、障害者も過疎の地域の方々も働く場を作ろうということで、「日本海倶楽部」というビールのプラントと、レストランを併設した施設を開設しました。当時は橋本内閣の時代で規制緩和が進み、規模が小さくとも酒造免許が取れたからです。

「佛子園」は社会福祉法人ですので、酒税も免除されるかと思ったのですがそれは無理でした。

でも今考えると、障害者がビールづくりを通じて国に税金を納めている、ということは意味深い事だと思います。

このビールは、毎年行われている「ブルワリー・オブ・ザ・イヤー2014」を受賞したおいしいビールです。日本国内の約170の店舗で飲んでいただいています。

また、「佛子園」の就労施設の事例として、「美川37Work」(石川県白山市)という施設もあります。

これはJRの美川駅内にあるのですが、駅というのは地域の一番いい場所に立地しています。そこをコミュニティセンターにしてしまうという取り組みです。

そこで各種デイサービス、駅にあるカフェと駅の清掃、管理、駐輪場と駐車場の管理などのすべてを、障害者の仕事としてやっています。

乗降客は1日約700人ですが、毎日1500人を超える方々がサービスを受けに来られます。

石川県では、「佛子園」が取り組んだ4つのJRの駅が、すでに障害者が係る施設に変わっていきました。この動きが他県に広まっていただくと、一気に障害者雇用が解決されるのではと考えています。



石川県内にある佛子園の施設一覧

日本版 CCRC を展開する3つの手法

地方が成長する活力を取り戻し、人口減少を克服するために政府が設置した「まち・ひと・しごと創生本部」では、日本版 CCRC を展開するには、市町村レベルの「タウン型」、地区レベルの「エリア型」、単体施設の「施設型」の3つの手法があるととしています。以下、「佛子園」の主な取り組みを分類してみます。

「シェア金沢」はエリア型です。1100坪というエリアに、高齢者の方々が住む場所と働く場所、活動する場所があります。

「シェア金沢」コミュニティのプロトタイプと言えるのが、「佛子園」が経営する「西園寺」(石川

県小松市)です。ここは本当にいいコミュニティになっています。「西園寺」は施設型で、小松市野田町に住む 55 世帯に限られた福祉を展開する施設です。

白山市と輪島市での取り組みはタウン型です。白山市では 3km 圏内に施設や病院をネットワークして機能させる、輪島市では漆を使って街を再生するという取り組みです。街の空き家や空き地など既存のものを繋いで面にして、街ごとで CCRC を展開しようというものです。

全国で 770 の事業が先行交付金を取得していますが、輪島市はそのうちの 5 つのトップモデル推進プランということになっています。

これから CCRC が本格化するのであれば、タウン型が主流となっていくと考えています。

人と人がつながり支え合う地域コミュニティ「西園寺」

「西園寺」では、2007 年より障害者の就労場所、障害者のデイサービス、地域の高齢者のデイサービスという 3 つの福祉機能を小規模多機能で取り組んでいます。

「西園寺」は元々、野田町 55 世帯のほとんどが檀家というお寺だったのですが、住職がいなくなり廃寺となってしまいました。

前述のように、「佛子園」の理事長は住職でもあったことから相談があり、施設運営を引き受けた次第です。

その条件として、住民みんなが関わってほしい、障害者が関われる施設としてほしい、ということでした。

施設の仕掛けとして 1 つだけしたことが、庫裏を改装して温泉を掘ったことです。野田町のみなさんに関わってもらうための考えでした。

町の人は無料としています。そうすればまずは来ていただけるだろう、来てもらえれば関わりは作っていけるだろう、と考えたのです。

住民の方が来られると、名札を返して氏名を記入してもらう仕組みにし、誰がどれぐらいの頻度で来ているかわかるようになりました。なかなか来てもらえない方には、ご近所さんとともに引っ張り出す、というような動きもしました。

また、面白いのは本堂を居酒屋に変えてしまったことです。「日本海倶楽部」のビールも生で飲めます。

日中は高齢者デイサービスや生活介護を行っているのですが、夕方から居酒屋モードに切り替わります。この居酒屋でも障害者が働いています。

ステージもあり、いろいろなイベントをやっています。基本は住民自治がキーワードですので、みんなで話し合って計画しています。



足湯にみんなでつかる

小学生もランドセルをしょったままここに集まります。先生も「西園寺」ならいいよ、と言ってくれています。七五三の時は、ここに連れて来れば街のみなさんに紹介ができると好評です。

左の写真では、足湯におばあさん 5 人が入っていますが、これが一番「西園寺」を表していると思いますし、「シェア金沢」が目指しているのもここです。

このおばあさんたちは野田町在住の方、他の町から生活介護を受けにきた方、高齢者デイサービスを受け



西園寺の温泉にある名札



本堂にある居酒屋

にきた少し痴呆がある方で、皆さん一緒にいます。

手前の男の子は生活介護を受けにきており、首から上しか動きません。初めのころはその首の可動域も15度ほどでしたが、今は90度ほど動くようになりました。

これは、この施設やスタッフが優秀というわけではありません。高齢者デイサービスを受けている少し痴呆が始まったおばあさんが、自分の分のおやつのプリンをこの子に食べさせようと、何度も失敗しながら食べさせているうちに、おばあさんの手の震えも少なくなり、この子の首の可動域も広がっていたのです。

福祉をやっていると、何か事故や失敗をする前についつい手を出してしまうんですが、勇気をもってやり過ぎない福祉を教わった感じでした。

「シェア金沢」が目指しているのはこういうコミュニティで、ここが「西園寺」と同じような役割を担えるようになるのが我々のミッションなのです。

「施設・住戸」「人」「コミュニティ」について気づきを共有

奥村氏からの説明の後、「シェア金沢」内を視察しました。

「シェア金沢」は約11,000坪の土地に、児童入所施設、学生向け住宅、サービス付き高齢者向け住宅のほか、天然温泉、レストラン、ライブハウスなどのアミューズメント施設、人と人との交流を楽しむ施設や機能があります。住人同士の交流はもちろん、地域の住民たちが楽しく集える街となっています。

視察後は荒井利春実験工房に移動し、気づきをディスカッションしてまとめるワークショップを行いました。

荒井氏には同PJが実施した住宅に関わるワークショップをご指導いただいたこともあり、今回は視察をご一緒いただき、ご自宅にある実験工房でワークショップも開催させていただきました。

ワークショップでは3つのグループに分かれ、それぞれ「施設・住戸」「人」「コミュニティ」について気づきの抽出をし、最後に発表しました。

各グループから発表のあった気づきや「シェア金沢」の主な特長を以下に記載します。

Share金沢 概要【総面積/約11,000坪】



「シェア金沢」敷地内



3つのグループに分かれて実施したワークショップ

①施設・住戸について

- ・建築家と打合せする際、「シェア金沢」スタッフは理事長から、「パターンランゲージ」(クリストファー・アレグザンダーが提唱した建築・都市計画にかかわる理論)を事前に熟読し、それを隠して行うように言われた。
- ・初期の提案では象徴的な建物が中心となっていたが、「特別な建物は不要。家庭的な環境で暮らしたい」と要望した。



曲線の歩道と水路

アルパカ牧場

敷地、住戸プランは同一だが、とても豊かな共用部と街並みを持っており、ウサギ小屋ではない。プラバシーよりも関わりを重視。

- ・天然温泉、カフェ、アルパカ牧場、ドッグランなど来たる仕掛けがある。
- ・曲線の歩道や水路。大きな窓でさりげなく見守る。
- ・「福祉」を前面に出したデザインがない。
- ・落ち着いた街並み、商店街。豊かな共用空間。



ショップやカフェが並ぶ商店街

②人について:

- ・趣旨を理解している入居者を選んでいる。
- ・サービス付き高齢者向け住宅の入居時の費用は少なめ。無理をせず出ていけるための配慮。
- ・知恵出しが上手い。
- ・人が地域をつくり、街を元気にしている。
- ・新しいものを取り入れようとする柔軟さがある。事業提案者には予算と部下がつく。
- ・デザイン力、アイデア力、トータルコーディネート力がある。
- ・温泉ののれん、ロゴマークなど全てがよくデザインされている。
- ・全てを職員で賄わず、住民自身の力を借りている。
- ・世話をする、される人の差が少ない。頑張ってますという感じではない。
- ・やりすぎない福祉。できることがあるという姿勢。
- ・横浜出身の居住者が中華街のお土産用に肉まんを販売するなど、住民のアイデアを取り入れている。
- ・マッサージを通して高齢者や障害者とコミュニケーションできるなど、人と人とのふれあいがある。



快適な共用空間

③コミュニティについて:

- ・顔がわかる範囲でやっている。
- ・各自参加できる役割がある。人生の目標、目的を持たせる仕掛けがある。
- ・みんな一緒に、ごちゃまぜから始まる無限の可能性がある。
- ・住民同士の化学反応、心の交流が生まれることが大事。
- ・障害児たちを支えるという目的、理念が先にあって住む人が選ばれる。
- ・地域に開かれ繋がる。理解してもらえらるまで懸命に説明する。

・店舗入居の条件に、自分の得意技を提供することがある。それがここでの人間関係の基本となっている。

障害児童が社会参加できるために

「シェア金沢」は、「佛子園」が50年にもわたり障害児童の暮らしを考えてきた集大成というものでした。

それは、障害児童の一人一人が人格のある個人として認められるとともに、児童施設を出てからも職があり、働きながら幸せに生きていけるという永いヴィジョンに基づいたものでした。

ある部分のケアでは連続性がなく、また、手を掛けすぎること本当にその子のためにはならない、ということも実感させられました。

さらに、こういう活動をしていくには「人」を育てることが最重要で、新人も関係なく、新しい企画を考えて提案するようにしているそうです。また、実行が決まった提案者には予算と部下がについて実行していける、というモチベーションも与えられるそうです。

ワークショップで荒井先生から「この理事長はお坊さんでもあり、『人を活かす』という本来のお仕事を全うされている」という言葉が印象に残りました。

何よりコミュニティの原点となった「佛子園」の「西園寺」の取り組みに、参加メンバー全員が大きな興味を持ったため、ぜひ次回視察をしようということとなりました。(了)



ワークショップの参加者で記念撮影



愛知県で開催！

オリンピック・パラリンピックのヴォランティアにも役立つ

第5回 UD 検定・中級 事前講習会と検定試験のご案内

UD 検定・中級検定試験 事前講習会

日時:2016年3月8日(火) 9:30~17:30

会場:NEC 東海支社(愛知県名古屋市)

講師:古瀬 敏氏(静岡文化芸術大学名誉教授)
和田 紀彦氏(IAUD 検定委員)

UD 検定・中級公式テキストブック「知る、わかる、UD」の検定ポイント解説を中心に、UDに関するさまざまな知識や情報を講習します。



「第1回 UD 検定・中級」試験会場の様子
(東京・芝)

第5回 UD 検定・中級 検定試験

日時:2016年3月17日(木) 9:30~11:30

会場:名古屋学芸大学(愛知県日進市)

試験方式:2時間・140問 ペーパーテスト。問題は公式テキストブックに準拠して出題します。合格後は「UD 検定・中級 認定証」を発行します。名刺への記載も可能です。

詳細は以下のリンクを御参照ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1602/08-110000.php>

中部圏域からより質の高い UD 社会の実現を目指して 第 6 回国際 UD 会議 2016 プレイヴェント開催のご案内

2016 年 12 月に開催いたします「第 6 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016」のプレイヴェントを、3 月 17 日（木）に名古屋学芸大学（愛知県日進市）で開催いたします。

当日は IAUD 総裁の瑤子女王殿下、大村秀章愛知県知事、河村たかし名古屋市長にもご臨席を賜る予定です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

詳細は下記をご覧ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1601/26-174623.php>



「第 5 回国際 UD 会議 2014 開会式の様子
（東京・お台場）」



2016 年 2 月の予定

2 月 10 日現在

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5 14:00～ 移動空間 PJ @Co-lab 二子玉川	6	7
8	9 15:00～ 情報交流センター @IAUD サロン	10	11 建国記念日	12 13:00～理事会 14:00～ 実行委員会 @NEC 本社ビル	13	14
15	16	17 9:30～ 移動空間 PJ バスピクト調査 @緑園都市駅 13:30～ 余暇の UDPJ @IAUD サロン	18	19	20	21
22	23	24	25 14:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン	26 13:00～ 標準化研究 WG @iAUD サロン	27	28
29 15:00～ 運営委員会 @IAUD サロン						

次号は 3 月上旬発行予定 特集:アワード受賞内容紹介③

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター（IAUD サロン）：

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話：03-5541-5846 FAX：03-5541-5847 e-mail：info@iaud.net